





タイトル	あたしの町 国宝神社(四基)		
場所	吉備津神社	分類	※記入しないでください。
説明	<p>ぼくが生まれてから、お宮参り、お食いぞめ、はっせん、など行事にはいつも吉備津神社に行きました。今も七十五せん水で五月と十月にて、ぼくをけんとうし、かんしゃするおまつりにさんかしています。</p> <p>なれ親見しんでいる吉備津神社は、ESD神社です。</p> <p>E ・じもとの人には、工事完了言己ねんでか子き、はんこいれか、くはうれました。</p> <p>・おまつりにさんかしたらおかしがもらえる。</p> <p>S ・かまのなる音で吉田をうらなうなるかましんじがある。</p> <p>・正月に神矢をいとおにの入いるのをふせく四方はらい神輿ある。</p> <p>D ・国宝である。</p> <p>・本堂でましている木北太郎のお話のもといわゆる伝説の土地である。</p> <p>・じれい600年の大いららがある(木火のこぼるの時がきれいである)</p>		
写真 または 絵など	<p>春桜と回廊 夏 緑と回廊 秋 本殿と大銀杏 冬 本殿と雪の山</p>		



<p>タイトル</p>	<p>不思議たくさんの御釜^{おかま}殿</p>		
<p>場所</p>	<p>吉備津神社</p>	<p>分類 ※記入しないでください。</p>	
<p>説明</p>	<p>吉備津神社の中に御釜殿があり、その中に土竈(つちかまど)がありそこに鉄釜がかけられその上に木製の曾瓦(こしき)が載せられています。釜の雷動で吉区をどえるという鳴釜神事。神官が祝詞を奏すると釜から音がなり、音がやさしくさわやかになると良い。鳴らなかつたり、低調であると不吉な知らせ。昔からつたわる、この竈の下には吉備津彦命の退治をした鬼の首がうめているという伝説もある。とても不思議な事があります。</p>		
<p>写真 または 絵など</p>			

わかまち ^{たかまつ} **高松** ^{え～な すげ～な で～れ～な～} **E S D** 調査表 


小学生・中学生版

タイトル	吉備津神社		
場所	吉備津	分類	※記入しないでください。
説明	<p>③ 吉備津神社には、官司<small>ぐわじ</small>さん<small>ネギ</small>禰宜<small>コネギ</small>さん<small>コネギ</small>権禰宜<small>コネギ</small>さん<small>コネギ</small>巫女<small>みこ</small>さんなどの人が、動<small>動</small>いています。</p> <p>中でも、官司<small>ぐわじ</small>さんは一番えらい人です。</p> <p>官司<small>ぐわじ</small>さんになるためには、高校をでて、大学にいかないといけません。でも、その大学は、日本に、2つしかないそうです。しかも、大学で4年間勉強して、テストで、合<small>あ</small>わく<small>く</small>ないと、いけないそうです。官司<small>ぐわじ</small>さんになるには、こんなに大変</p>		
写真 または 絵など	<p>た<small>た</small>なんてビ<small>ビ</small>ックリ<small>ックリ</small>しました。</p>  		



<p>タイトル</p>	<p>江戸時代からつたある むかしはが 向火田の吉備津神奈土日参木 に～さんふだ</p>										
<p>場所</p>	<p>吉備津向火田町内 (吉備津神奈土からまつなみ木を まじにすさんだり所)</p>	<p>分類 ※記入しないでください。</p>									
<p>説明</p>	<p>この木でできたいたは江戸時代のほうれき八年(1759年)に作られ ました。ほくのすむ向火田は120けんぐらりの家があります。が 一年に二回ぐらいこの木しがやってきます。ほくのおはあちや んの話では「この木しが回て来たらな、きびつあぬえ おまいりするんじやが」ということです。ほくはさ、そく吉備津神奈 土へおまいりしてきました。</p> <p>250年前からつづいていて、このあたりではもう向火 田にしかのまていない風習だそうぞ</p>										
<p>写真 または 絵など</p>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 20px;"> <p>うら</p>  </div> <div style="margin-right: 20px;">  </div> <div> <p>表</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>はば 32cm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>あつさ 3.5cm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>重さ 4.2Kg</td> </tr> <tr> <td></td> <td>高さ 74cm</td> </tr> </table> </div> </div>				はば 32cm		あつさ 3.5cm		重さ 4.2Kg		高さ 74cm
	はば 32cm										
	あつさ 3.5cm										
	重さ 4.2Kg										
	高さ 74cm										



タイトル	魚里山小でしか体験できない! 三味線餅つき!		
場所	魚里山小学校	分類 ※記入しないでください。	
説明	<p><u>三味線餅つきとは</u> 江戸時代の中頃始まったと言われています。吉備津ネ申社に奉納するための餅をついている時、芸者さんが餅つきが楽しく盛り上がるのではと、三味線や太鼓や唄なども付けたことが始まりとされています。</p>		
	Q(質問) どうして学校行事になったの?	A(答え) <u>三味線餅つきのQ&A</u> 平成20年に、1人でも多くの児童に参加してほしいということで学校行事になりました。	
	魚里山小の三味線餅つきの内容は?	三味線と太鼓は三味線クラブという特別なクラブに入っている4～6年生が演じます。三味線と太鼓は地いきの方から教わっています。餅つきにカガウお米は5年生が育てます。餅つきは、全校生徒が順番に体験します。	
<p>ししん 写真 または え 絵など</p>	<p>ぎょ年の三味線餅つきの様子。三味線を、ている時、 お餅つきしている時、</p>  <p>2012. 12. 09 2012.</p>		



<p>タイトル</p>	<p>栄西の『喫茶養生記』について</p>		
<p>場所</p>	<p>岡山市北区吉備津 茶祖 栄西弾師生誕地</p>	<p>分類 ※記入しないでください。</p>	
<p>説明</p>	<p>栄西は1141年吉備津神社の神官を務めていた賀陽氏の一族として誕生しました。日本の茶の歴史は栄西の伝法とともに始まったとも言われ、お茶の効能をはじめ日本人に知らせた人物です。 14歳の時出家(髪をそり僧になること)し、その後中国の宋に渡り帰国する時に日本にお茶を持ち帰りました。 『喫茶養生記』は上下二巻の本となっています。 上巻は養生(体に気をつけること)の大切さを説明し、続いて五臓(肝臓、肺臓、心臓、脾臓、じん臓)の解説をしています。 栄西は「茶は健康維持の特別な薬であり、寿命をのばしてくれるものだ」 「このうちもっとも大切な心臓を養う苦味は、日常の食事からはとりにくい。しかし茶を飲むことで苦味を取ることができ、</p>		
<p>写真 または 絵など</p>	<p>心臓をととのえ万病を除くことができるのだ」と記しています。 下巻では、桑(ゆ)を主題とした養生法について記されています。 このように、『喫茶養生記』は茶道の本と言うより、むしろ宗教観に根ざした医学書とも呼ぶべきものでした。 また、栄西は二日酔に苦しむ鎌倉幕府三代将軍源実朝に、茶と一緒にこの本を献上したそうです。 今でも毎年、岡山後楽園では、春に「栄西茶会」が開かれています。</p>		



茶祖 栄西 弾師